

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共に歩む」「介護は心」を共有し、日々のミーティングや毎月の職員会議で再確認している。施設目標を掲示し、日々の生活と照らし合わせ職員間で情報共有し実践に繋げるように努力している。	法人の理念「共に歩む」、「介護は心」を基に利用者により寄り添い、ホームの目標を立て事務所に掲示し、職員は理解し実践している。また、職員会やミーティング時の情報を共有し日々の支援に繋げている。家族に対しては法人の理念を利用契約時に説明し、取り組み姿勢を明確にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で人の集まる場所への外出制限やボランティア等の来訪を自粛せざるを得ない状況下にある。施設周辺の散歩等で地域社会とも切り離されることがなく繋がれるように努めている。	区費を納め地域の一員として活動している。例年であれば区の運動会や敬老会等の行事に参加し楽しい一日を過ごしているが、新型コロナ禍の中、行事への参加も難しく、ボランティアの来訪も自粛せざるを得ない状況となっている。毎年利用者で参加している諏訪湖清掃活動は10年継続して続けており感謝状をいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症サポーター養成講座」研修会等を開催し理解を拡げる活動をしている。また現在、諏訪湖アダプトプログラム(諏訪湖の美化活動)を年4回実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で対面での会議を中止し、基本情報として日々の活動やサービス状況を書面で報告している。頂戴した意見・アドバイスは真摯に受け止め、より良いサービスに向けて業務改善等に反映している。	利用者代表、家族代表、区長、民生委員、諏訪広域連合職員、介護相談員、ホーム関係者の出席で定期的に開催していたが、新型コロナ禍で現在は書面開催となっている。委員に送る資料の中にご意見をいただくよう案内し、頂いた意見やアドバイスはサービス向上や業務改善に活かしている。管理者の交代もあり地域の関係者へ挨拶に伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営・サービス状況は定期的に書面で報告している。日々変化する介護保険等の最新情報はメール配信にて常に共有している。又、市主催の連絡協議会等に参加し情報共有を図っている。	年3回、市の担当者出席の下、岡谷市のグループホーム意見交換会が開催され管理者が出席し情報交換しており、事業所連絡会も開催している。例年であれば、毎月2回、2名の介護相談員の来訪があり、納涼祭等ホームの行事にも参加し利用者も心待ちにしていたが現在は中止となっている。介護認定更新調査については調査員がホームに来訪し実施されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束チェックや研修会を行い、全職員で意識を高め取り組んでいる。現行、防犯上玄関は施錠しているが、要望があれば開けるように努めている。又、ホール窓や希望するご利用者の居室窓は解放し、自由にベランダへ出られるように配慮している。	法人として「身体拘束ゼロ宣言」をしており、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は防犯上の安全確保のため施錠されている。居室の掃き出し窓は開放し、ホールから出たい方にはベランダに出られるようにしている。所在確認は定期的に行い、そわそわされる方には全員で注意を払っている。研修会や虐待防止チェックリストで虐待の芽を摘む努力をし、毎月法人より虐待防止通信が送られ振り返りがされている。現在ふらつきのある方が若干名おり家族了解の下、センサーを使用している。	

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員の「虐待防止チェックリスト」の集計から「不適切なケア」を発見し、早期に改善していくように努めている。常に尊重する気持ちを持って関わる事を意識し、日頃の言葉遣いやケアが適切であるか確認しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修会で学ぶ機会はあるが全職員の参加は難しく、又職場への落とし込みには至っていない。ご家族間のトラブルで悩まれている相談者には専門の方を紹介するなどの支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時は十分な説明を行い、疑問点や不安なことが無いかわきながら同意を得ている。介護報酬・料金等改定があった場合は文書と口頭にて説明し、ご理解をいただくと共に同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りにて近況報告とご意見を頂戴したい旨等発信している。ご利用者との日々の生活の中の何気ない会話から思いを汲み取り、ご家族には面会時やお声かけをしたり、意見箱を設置するなど機会を設けている。頂戴したご意見等は全職員に周知し改善へと反映している。	殆どの利用者が何らかの意思表示ができる状況で、問いかけを行い要望等を把握し受け止めるよう心がけている。新型コロナ禍で、面会は事務所予約制とし10分間アクリル板越しで行ったという。Zoomや窓越しでの面会、電話、手紙等で利用者と家族が交流ができるように努めている。家族あてに毎月のお便りに入れたご意見、ご意向の回答もいただき、職員で共有し運営に反映させている。家族会も開催できていないがホームに見えた時、衣替えなどを手伝っていただいたり、庭の草刈りの協力もいただいている。ホームの様子は毎月発行される写真入りの「風薫新聞」と一人ひとりの様子を記した個別のお便りで詳細にお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日常において報告・相談がしやすい環境作りに努めている。物事の変更時は全職員と話し合う場を設け実施している。管理者との個人面談にて出された意見や思いは内容に適切な対応をしている。	月1回全体会議を行い、係からの報告や職員間で高めたいことなどを議題に意見を出し合っている。報告・相談がしやすい環境作りに努め管理者から声をかけるなど職員の思いを引き出す努力がされている。目標管理制度については年間目標を立て半年ごと振り返りを行い、管理者と個別面談しアドバイスを受けスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定し年2回の自己評価を行い、管理者がアドバイス等を記載している。個人評価が給与等に反映されることはないが、やりがいを持った働きやすい環境作りに努め、職員の現状や意見等は常に上長へ報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は月1回全職員対象で計画されている。法人内外研修も多く、職員一人ひとりが学べる機会は充実している。又、受けた研修を現場に落とし込むサポートを強化しており、施設全体がスキルアップすることを目的としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業者とは会議、勉強会等で会うが相互意見交換交流には至っていない。法人外への会議、研修会等への参加にも理解があり、施設独自として機会があることに参加して、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の気持ちを一番に考え、その方の声や思いに耳を傾け寄り添っている。希望しない事は勧めない、又声にならない思いも察知し、ご本人が安心する関係・環境作りを常に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の主たる訴えは何かを耳を傾け、どんな些細なことでも話していただけるよう丁寧な対応を心がけている。不安なことやご意見、ご意向をお聞きする中で良い関係を作るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク面接の際、現サービスと今後必要とされるサービスがあることを伝えている。当施設では提供できないサービスが必要に及んだ場合も他のサービス利用等も含めて柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者お一人おひとりのペースで生活していただく中で今までの習慣を尊重している。ご自身でできる事はしていただき、できない事を一緒にする支援に努めている。日々の生活の中で喜びや楽しみ、時には悲しみをも共感できる関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の近況を詳細に伝え意向をお聞きしながら、常にご協力を仰いでいる。但し、ご家族の思いやできる事の力量には個人差があり、柔軟な対応を心がけ良い関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の生活歴を把握し意向に沿った支援に努めているが、コロナ禍の影響で密を避けないといけない現状にある。ZOOM面会・窓越し面会・お手紙・電話等に対応することで関係が途切れない支援に努めている。	新型コロナ禍で外出や面会が自粛ぎみとなっているが、若干名の方が馴染みの美容院に家族と行きパーマとカラーをしており、馴染みの関係が継続できるようにしている。Zoom面会・窓越し面会・手紙・電話・年賀状等で対応し関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が回り合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性・性格等を把握し、ご利用者間が円滑に交流できるように介入している。又、レクリエーション・行事等を通じて良い関係性を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設から積極的にご連絡することはしていない。サービスを終了したご家族が近況報告やその後の相談をされる方もおり、必要に応じて支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会あるごと、又は日々の会話の中からご本人の思いや希望を聞いている。聞き取りが困難な場合はご家族等から情報を得たり、その方の現状や表情等から思いや意向を汲み取り情報共有し、ご本人本位となるよう対応している。	殆どの利用者が思いを伝えることができる。言葉、表情、行動等から思いや希望を聴いている。「何が食べたいですか?」、写真を見て「どちらが良いですか?」、「好きですか?嫌ですか?」など、日常の会話が困難な方でも現状や表情等から思いを汲み取り職員間で情報を共有している。利用者と1対1になる特別な時間を大切に、さりげなく意向を受け止め本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前情報の情報不足はご本人との会話やご家族からも折に触れ伺いながら、お一人おひとりが「私らしく」過ごせるような個別サービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化は職員間で情報共有し記録に残している。個々の生活リズムを尊重する支援を心がけているが、時に職員本位に進めてしまうことがある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきと職員間の情報交換は常に行っている。ご本人・家族・職員、時に主治医・看護師等を交えて話し合い、介護計画の検討・見直しを繰り返し行い、現状に即した介護計画を作成している。	担当制を敷いており職員は1~2名の利用者を担当し、居室の環境を整え不足の物の補充、個別のお便り情報の作成を行っている。介護計画については担当者数名の職員でケア会議を行い見直し、3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎の見直しとしている。状況に変化が見られた時には随時見直しをかけ、現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に身体状況、ご本人の言葉や様子を記入し職員間で情報共有している。記録から得られる情報を個々に適したケアの実践及び見直しに活かしている。但し、ケース記録入力に対して職員の個人差があり今後の課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が付き添えない時には、受診の付き添い及び通院助支援をしている。又、身体状況の変化で当施設生活が困難になった場合においても、主治医・看護師・他事業所間との協議により、できる限りの支援を講じて柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響でボランティア訪問を中止している。なるべく密を避ける生活を強いられる現状ではあるが、個別の意向を尊重している。馴染みの美容室に出かける等の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は希望をお聞きしている。ご家族対応受診の方の主治医には毎回情報提供書をお渡しする等、すべての主治医と連携を密に取っている。主治医変更希望があった場合には、双方の連絡役となり誠意をもって支援している。又、協力歯科医による往診も行われている。	利用者は希望するかかりつけ医を利用しており4割弱の方は家族が定期受診に同行している。その際には家族に情報提供書を渡し受診している。その他の利用者は4病院の医師の往診を受けている。週2日勤務の看護師に相談し指示をもらうこともでき健康管理体制が整えられている。歯科については協力歯科医の往診が行われ、職員への口腔ケアの指導もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を配置し対応している。又、かかりつけ医によっては訪問看護があり常に相談できる体制になっている。異常発生時は主治医の指示の下、適切な受診及び治療となるよう早期に医療へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、詳細な情報提供書を渡している。常にご利用者の状態を把握し早期退院に向け病院関係者と密に情報交換をしている。又、日々良い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、最初の説明を行い、その後重度化・終末期を見極めるタイミングで、ご家族・主治医・看護師・介護職員等で話し合う機会を設けている。ご本人・ご家族のご意向を確認し、その時の当施設の現状を説明の上、ご本人・ご家族にとって最適な方法を支援している。	重度化、終末期の対応についてはホームとしての指針があり利用契約時に説明している。終末期に到った時には家族、主治医、管理者で話し合いを持ち、主治医よりの指示を得て同意書にサインをいただき、看取り支援に取り組んでいる。新型コロナ禍ではあったが家族が最期を利用者と過ごしていただくようチームで支え合い「こんなに長く一緒にいることができました」と家族から感謝の言葉を頂いた。看取り後は振り返りを行い、次の看取りケアに活かしたいという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基に研修を行っている。又、実際に起きた事故の対応確認や計画作成時に急変や事故が予測される場合は、全体会議等で話し合い勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月施設内ミニ防災訓練を行い防災意識を高めている。6月・11月隣接事業所と共に総合防災訓練を実施。5月法人一斉「災害時情報伝達訓練」9月「地震想定訓練」を行い全職員が自分の身に置き換えて実践できるように努めている。又、定期的に災害対策マニュアルを確認している。	年2回、6月と11月に隣接の事業所と共に総合防災訓練を実施している。災害時情報伝達訓練、地震想定訓練も行われ参加できる利用者は非常口に避難している。毎月のミニ防災訓練では非常ベルの押し方、AEDの使用、夜間想定等を行い、定期的に災害対策マニュアルを確認し、常に防災意識を高めている。法人より「水」「米」「缶詰」等、備蓄品が3日分届けられ保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を常に持ち基本は名字でお呼びしている。ご本人で行う事が困難な場合はさりげないケアを心がけている。又、慎重な内容の話をする時は必ず居室で行うよう配慮している。	言葉遣いには常に気配りをし、優しい言葉かけになるよう取り組んでいる。職員間での会話の中では個人情報をお話さないよう注意を払っている。利用者へ声がけする時は苗字に「さん」を付けお呼びしている。大事な話をする時には居室で行うようプライバシーに配慮した対応がされている。プライバシー保護の研修会を行い、新規職員のオリエンテーションでも管理者から話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意向を伺い、自己決定していただけるような声かけを意識している。言葉では十分に表現できない方は、日頃よりの表情の変化や体の動きから注意深く読み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の施設において、一日の流れや生活リズムは大まかに決まっているが、その中でも一人ひとりのペースで意向に沿った支援をしている。決して無理強いをしないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者自ら身だしなみを意識していただけるようなお声かけを常に心がけている。日々、好みの服をご自分で選んでいただき、お化粧品や装飾など今まで行ってきた事を継続し、お洒落が楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節を感じられる食材を取り入れるようにしている。ご利用者お一人おひとりのできる事を見極めて、メニュー考案・盛りつけ・食器拭き等一緒に行っている。お誕生日にはその方のお好きな物でのお祝い膳にするなど行事食を大切にしている。	自力で食事の摂れる方が9割弱、一部介助と全介助の方が若干名となっている。新型コロナ禍の中、現在は職員と一緒に食事を摂ることは自粛している。献立や食材は配食会社の物を使い、職員がアレンジしたり変更し調理している。行事食、誕生日食は利用者の希望を聞き、盛り付けにもこだわった豪華な食事が提供されており利用者にも好評であるという。利用者のお手伝いも新型コロナ禍で制限し、食器拭きをできる方をお願いしている。敬老会では美味しい食事と共に、おやつには職員が抹茶を立て羊羹で美味しくいただいたという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひと月の体重の増減を基準に捉え、時には主治医に指示を仰ぎ、その方の現状に即した食形態(ミキサー食・トロミ食・キザミ食など)を提供している。栄養士は居ないが「食事・栄養・脱水予防等」学習会を行い、変化が生じた場合は食生活全体を総合的に見直し改善するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝・毎食後、お一人おひとりの状態に応じた口腔ケアをしている。歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジ等、必要時は個別に提供し、義歯を含めて洗浄消毒をしている。口腔内の状態によっては協力歯科医に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの尿量・習慣や表情・様子等を把握し自尊心に配慮した声かけをしている。排せつケア用品の調整やコストダウンを意識して、ご本人の負担軽減に向けた自立支援を行っている。	自立の方、全介助の方がそれぞれ2割弱で、その他の利用者は介助が必要となっている。一人ひとりの利用者に合わせて布パンツ、リハビリパンツ、パットをそれぞれ使用している。排泄状況をタブレット端末に入力し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。排せつケア用品の調整やコストダウンを意識し、本人や家族の負担軽減に取り組み、また、自立支援に向けた取り組みがされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの排せつパターンを見極め、その方の状況に応じた支援をしている。乳製品・繊維質の食べ物の提供や水分量の調整、運動等の対応にて自然排便につながるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯は施設側で決めてしまっているのが現状である。但し、無理強いをすることはせず希望されない場合は、時間帯や曜日を変えて動いている。ご利用者個々の今までの習慣に合わせて、楽しんでいただけるように支援している。	一部介助の方が8割弱、全介助が2割強の状況で週2回入浴を行っている。安全確保のため二人介助の時はシャワー浴を行っている。入浴拒否のある方には無理強いせず、時間帯や曜日を変え入浴をしていただいている。また職員との会話も大切に楽しんで入浴していただくよう入浴剤は利用者を選んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不調時は無理せず休んでいただいている。居室の環境(室温・湿度・寝具類)を整えることで、安らげる環境作りを心がけている。眠れない時は、お一人おひとりの状況を総合的に捉えて原因を探り、その方にとっての安らぎを見つける支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬の薬性は個人ファイルで常に把握できるようになっており、変更時は「薬一覧表」及び体調について詳細に記録に残し情報共有している。状態変化には常に注視し、飲み込み状態に合わせた薬の形状等医療側に相談するなど連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自信や意欲の向上に繋がる事を大切に、お一人おひとりの趣味、得意な事等を把握し、日常生活の中で発揮していただくように支援している。好みのおやつについては冷蔵庫に個別保管しており、食べたい時にお渡ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で3密を避けた外出支援となっている現状である。毎日という訳にはいかないが、個々の意向に沿った外出支援を常に心がけている。ご本人とご家族の希望でお出かけをされている方はいるが、職員とご家族又は地域の方々と協力しての外出支援には至っていない。今後ご希望があれば積極的に支援していきたい。	外出時自力独歩の方が数名で、その他の方は車椅子使用である。年間活動計画を立て外出支援に取り組んでいる。最近では諏訪湖に行きもみじ饅頭を食べ秋を楽しんだという。散歩時ランニングされている方から声をかけられ挨拶をし、天気の良い日はホームの周辺を散歩し花を眺めたりもしている。新型コロナ禍で思うように外出ができない状況が続いている。	

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にての個人保管はトラブル回避の為お断りしているが、金庫にてお預かりしている方はおり、外出の際はご自分のお財布を持ち買い物をされている。個人で買い物時は職員が同行して買い物をしている。(コロナ禍の影響で現在は中止)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方には充電が切れないように気配りをし、ご家族からの電話はご本人につないでいる。又、手紙のやりとりができるようにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花や観葉植物など季節の花々を飾り、四季を感じていただけるようにしている。共用生活空間は居心地よく過ごしていただくようにソファを置き、湿度や明るさに配慮し過ごしやすい環境を整えている。落ち着けるような音楽を流すなど工夫している。	玄関に入ると洗面台に利用者の生けた大きな生花が飾られており、清々しく迎えてくれる。月2回花屋さんよりお花の花材が届けられて利用者と共に生け、環境整備もしている。利用者が一日の大半を過ごすホール兼食堂は明るく天井が高く、観葉植物が置かれ開放的であり、窓も広く、すぐ近くに諏訪湖を望むことができる。BGMが流れテーブルで作業したり、ソファでテレビを観たりと、床暖房で温かく心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛け・3人掛けのソファ等、その時の状況に合わせて過ごしていただいている。気の合った方同士一緒に座ったり、お互いのお部屋に行き来をしているが、施設的设计上、台所・食堂・トイレなど全てが同じ空間にあるため居心地の良い空間になっているかは課題となる。更なる居場所作りの工夫は続けていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真など、ご本人・ご家族の意向をふまえて自由に持ち込んでいただき、以前と変わらない暮らしができるように努めている。ご利用者が居心地よく過ごしていただけるように模索・工夫している。	整理整頓された居室には自宅から持ち込まれたタンスや位牌、家族写真、ご自身の描かれた絵が飾られ、また、本やノートが置かれ、在宅時と変わらない暮らしができおり、ハンガーラックにはセーターやカーディガンが掛かっていた。窓からは諏訪湖や山並を望むことができ、心地良く生活されていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線にある危険物を取りのぞいて環境作りを行い、お一人おひとりの状態に応じたベッド配置や家具の置き場を考えている。又、トイレまでが分かるような表記など、ご意向に沿った且つ自律につながる支援を工夫し行っている。		